

Economic Indicators

発表日: 2024年4月5日(金)

景気動向指数(2024年2月)

～基調判断が2ヶ月連続の下方修正で「下方への局面変化」に～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

非常に弱い結果に

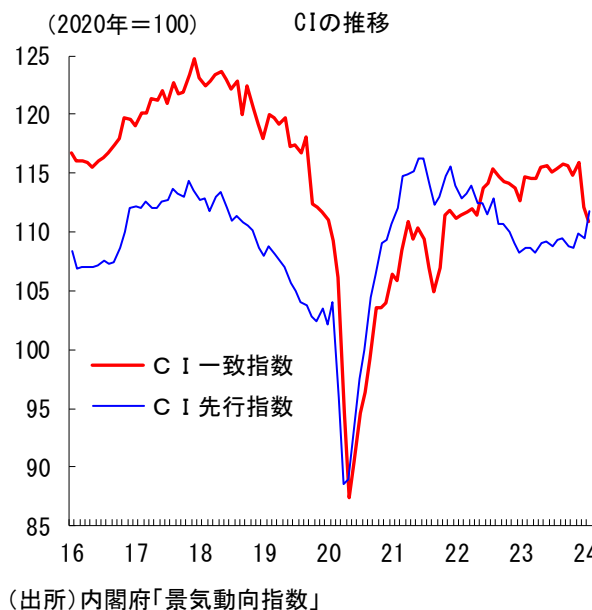
内閣府から公表された2024年2月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差▲1.2ポイントとなった。1月に前月差▲3.8ポイントと大幅に低下した後であるにもかかわらず、さらなる悪化となっており、非常に弱い結果である。内訳では、耐久消費財出荷指数、投資財出荷指数、輸出数量指数など、輸出、出荷関連による押し下げが大きい。認証不正問題を受けた一部自動車メーカーの工場稼働停止が続いたことが影響している。自動車産業は裾野が広いことから、自動車以外の関連業種にも悪影響が広がっているようだ。

基調判断は「下方への局面変化」に下方修正

この結果を受け、C I一致指数の基調判断は1月の「足踏み」から「下方への局面変化」へと下方修正された。23年4月以降9ヶ月連続で「改善」となった後、24年1月は「足踏み」へと下方修正されていたが、2月は2ヶ月連続での基調判断引き下げとなっている。自動車減産の影響で1-3月期の景気が弱含んだことがここでも示されている。

先行きについては不透明感が強い。C I一致指数と関連が深い鉱工業指数をみると、製造工業生産予測指数では24年3月に前月比+4.9%、4月に同+3.3%の増産が見込まれている(経済産業省による3月補正值: 前月比+4.5%)。自動車の生産再開が段階的に進むことから、先行きの生産は持ち直すことが予想されるが、1、2月の落ち込みが大きいことから1-3月期でみると大幅減産は不可避の状況だ。また、工場の稼働再開は進んでいるものの、4-6月期にも悪影響は残存するとみられ、生産水準が元に戻るには時間がかかる可能性が高い。C Iについても先行き上昇が見込まれるが、水準は当面低いものととどまる見込みである。

なお、3月のC I一致指数が前月差で僅かでもマイナスになった場合、基調判断は「悪化」へとさらに下方修正される。また、3月が上昇だったとしても、4月にマイナスとなれば、そこで悪化へと下方修正される可能性も残る。3、4月は自動車工場稼働再開による持ち直しが見込めることから基調判断が「悪化」まで下方修正されることは回避される可能性が高いが、一定の警戒は必要だろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

